

令和 7 年 8 月の解説（府県天気予報）

【8 月の天候状況】

上旬は、期間前半は、北・東・西日本では高気圧に覆われて晴れた所が多かった。気温が高く、特に南高北低の気圧配置となった 5 日には、関東甲信地方の各地で日最高気温が 40℃を上回り、群馬県伊勢崎では 41.8℃と、気象官署等とアメダスを含め、全国での過去最高を更新した。このため、旬平均気温は北・東日本でかなり高くなった。一転して、期間後半には、停滞前線や前線上の低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。東・西日本日本海側と九州南部を中心に、各地で線状降水帯が発生するなど、記録的な大雨となった所もあった。このため、旬降水量は東・西日本日本海側でかなり多く、旬降水量平年比は、東日本日本海側で 560%、西日本日本海側で 414%となり、1946 年の統計開始以降で 8 月上旬として 1 位の多雨となった。一方、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて、期間を通して晴れた日が多かったため、旬降水量はかなり少なく、旬間日照時間は多かった。

中旬は、期間のはじめに前線が東・西日本付近に停滞した影響で、九州北部地方で線状降水帯が発生するなど、東・西日本日本海側では大雨となった所があった。期間の半ば以降は、太平洋高気圧が強まり、東・西日本を覆った。北日本は高気圧に覆われやすかったが、期間の終わりには前線の影響で日本海側を中心に大雨となった所があった。沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かった一方、台風第 11 号や熱帯低気圧の影響も受けた。これらのことから、旬降水量は北・東・西日本日本海側で多い一方、東日本太平洋側では少なかった。旬間日照時間は全国的に多く、北日本太平洋側ではかなり多かった。気温は全国的に高く、暖かい空気が流れ込みやすく、また、高気圧に覆われて晴れの日が多かった北日本でかなり高かった。

下旬は、高気圧に覆われて全国的に晴れた所が多く、旬降水量は東日本太平洋側でかなり少なく、旬間日照時間は東日本日本海側と東日本太平洋側でかなり多かった。東日本太平洋側の旬降水量平年比は 11%で、1946 年の統計開始以降、8 月下旬として 1 位の少雨となった。一方、低気圧や前線が数日の周期で北日本付近を通過し、北海道では大雨となった所があり、29 日は青森県で線状降水帯が発生した。また、鹿児島県では台風第 12 号が 21 日に上陸し、大雨となった。旬平均気温は、暖かい空気に覆われやすく、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、北・東・西日本でかなり高かった。30 日と 31 日は、関東甲信地方と東海地方で日最高気温が 40℃以上となる地点があった。旬平均気温平年差は、東日本で+3.1℃、西日本で+2.1℃となり、1946 年の統計開始以降、8 月下旬として 1 位の高温となった。

【8 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 2 ポイント高い 84%で、明後日予報は例年値より 5 ポイント高い 83%となった。地方別

の適中率では明日予報は北海道、四国、九州北部、九州南部、沖縄地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値を上回った。また明後日予報は九州北部、九州南部、沖縄地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値を上回った。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.2℃で、九州南部地方では例年値より大きくなったが、その他の地方では例年値より小さくなった。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1℃小さい 0.9℃で、九州南部地方では例年値より大きくなったが、その他の地方では例年値より小さくなった。

（注）例年値は 2015 年～2024 年の平均値です。

【10 月の天気予報の利用にあたって】

秋になると、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過するようになり、天気は数日の周期で変わるようになります。低気圧が急速に発達しながら日本付近を通過する際には、大雨や強風など荒れた天気となることがあります。天気予報で大雨や強風などが予想される場合は、最新の気象情報や早期注意情報、警報・注意報、キキクル（危険度分布）など気象情報に十分留意して下さい。